

ジカ熱、デング熱対策 媒介の蚊産卵期前が効果的



ヒトスジシマカの成虫（国立感染症研究所提供）と幼虫のボウフラ（山内健生さん提供）

今から、蚊の対策を。世界で感染が広がるジカ熱が懸念される中、ウイルスを媒介するやぶ蚊「ヒトスジシマカ」は国内にも生息し、羽化の時期を迎えている。2014年には東京・代々木公園を中心に駆除が続いたデング熱の感染源でもあり、専門家は対策を呼び掛ける。（山路 進）

ジカ熱は昨年からブラジルなど中南米を中心に拡大。厚生労働省によると、国内では今年2月以降、ブラジルや太平洋諸国から帰国した男女5人の感染が確認された。国内での感染拡大はないが、流行域はタイ、フィリピンなど東南アジアを含む49カ国・地域に広がった。

一方、デング熱では14年に全国で160人が感染。同年10月に患者が確認された西宮市は、患者宅の半径200メートルにある溝や庭などに蚊を駆除する殺虫剤をまき、感染防止を図った。

ヒトスジシマカは5月から羽化を始めて飛び始めるといい、西宮で駆除を担った同市環境衛生課の中田浩二さん（58）は「今なら何千、何万匹を駆除できる」と強調する。

対策は、庭や公園なら水たまりを埋め、家庭であれば軒先などのバケツの水を捨てること。蚊が産卵のために入り込む雨水ますに網を掛けることも有効という。

ジカ熱の症状そのものは比較的軽いが、妊婦が感染すると新生児の脳が十分に発達しない小頭症を発症する可能性がある。厚労省は、妊娠中の女性は8月にリオデジャネイロ五輪が開催されるブラジルなど、流行地に渡航しないよう勧告している。

兵庫県立人と自然の博物館の山内健生主任研究員（40）によると、ヒトスジシマカの雌が血を吸い、日中に半径50～100メートルを飛び、10月末まで繁殖を繰り返す。関西福祉大の勝田吉彰教授（55）＝渡航医学＝は「14年のデング熱感染は秋口で蚊の活動も終息した。今回はこれからの活動期で、国内感染に備えた対策が急がれる」と警鐘を鳴らす。



雨水ますのふたの下に網を張れば、産卵する蚊の進入を防ぐことができる＝西宮市西宮浜3

ジカ熱を媒介する蚊の繁殖防止策

- 庭やベランダなど屋外の容器の水を捨てる
- 公園などの水たまりを埋める
- 雨水ますなどにネットを張る
- 墓地の花受けの水を捨てる

※西宮市環境衛生課への取材から